

2024年9月13日(金)

老球の細道828号

### あれから1年、地道な努力の積み重ね

会津バスケットボール協会 室井 富仁

先日行われた高校選抜地区大会の閉会式においてスピーチを依頼され、日々の努力の積み重ねからしか困難な現状を打開する方法はないということ話を話した。外国からの留学生やリクルートで強化している高校バスケットボール界の現状に諦めないで立ち向かってほしいと思い、そのテーマを特にピックアップした。

そしたら9月11日(水)朝日新聞の『折々のことば』に「Less is more」という言葉が掲載された。英語の慣用句で「少ないほうがかえって豊かだ」という意味である。要素を色々加えるより控えめの方が美しいという意味で、ある建築家が発したのがルーツであると言われている。選句者は地道な努力の積み重ねがいずれ時代を大きく動かすと、この句とともに信じていると述べている。

私事になるが今年の9月12日「脊柱管狭窄症」の手術のために生まれて初めて入院した。10年近く腰痛で悩まされ、何とかだましまし運動を続けてきたが、今年の3月頃から歩くのにも困難を感じるようになり、最後の手段であった手術治療に全てを託すことになった。昔大好きであった新潟の幻の銘酒「越乃寒梅」には申し訳なく「腰の完敗」となった。翌日内視鏡による手術を行い無事成功し、10日間に渡る入院生活を送り現在に至っている。私のダイアリーノートに記された「記念日」シリーズによると、9月12日が「入院の日」、9月13日が「腰手術記念日」と記されている。

手術後は自力でリハビリに没頭する日々が続き1年が経過した。10年間まともにできなかったバスケットボールのゲームを孫や子供たちとプレイすることを夢見て今日も歩き、走り続けている。しかし、痛みは取れたが、足裏や足指のシビレ、違和感は未だに取れず思い切って走ることはまだできないでいる。時折、このままスムーズに走れなくなるのではないかと不安を感じる時があるが、何事も毎日の努力の積み重ねが後に大きな効果を生み出すことを信じている。過去にそのような経験を何度もしてきたからである。近所では私よりひどい状態の人が昨年はずっと杖を頼りにウォーキングのリハビリをしている。その人から比べれば私なんかはまだまだ序の口である。

最近孫の強い願いによって、我が家では史上初のペットを飼うことになった。犬か猫かと思ったら地道な努力の代名詞「亀」であった。いまこの時なんとグッドタイミングなんだろう。体長約6cm位の「カブトニオイガメ」である。水槽で毎日ヨチヨチ歩く「亀仁(かめひと)」(私が命名)を見ながら日々の地道な努力を自分自身に啓蒙していこうと思う。またこの亀は25年くらい生きていそうである。亀は長生きで有名であるが、この亀と長生きの競争をするのも面白い。

あれから1年。腰の再起も長生きも、そしてチームの強化も日々の地道な努力の積み重ねがバタフライ効果となり、ある日突然大きな効果を及ぼす。ポパイのハウレンソウはない。